

## 平成22年度 第1回太田地域協議会会議録

### 1. 日 時

平成22年4月27日(火曜日)午前10時～

### 2. 場 所

太田庁舎「会議室」

### 3. 会議の次第

- (1) 開会
- (2) 会長あいさつ
- (3) 副市長あいさつ
- (4) 議題  
会議録署名委員の指名について
- (5) 協議
  - 1) 地域公共交通の提言について
  - 2) 提言に関する意見交換
  - 3) 地域枠予算執行事業について

### 4. その他

太田総合支所各課からのお知らせについて

### 5. 出席者氏名

- (1) 出席委員(13名)  
石崎 尚、大信田孝文、大信田弘喜、大信田康雄、草薨 太郎、  
倉田 良子、高貝 恵子、鷹觜 信行、高橋清一郎、田口 誠毅、  
野中シゲ子、藤澤由希子、藤原 鈴司
- (2) 大仙市役所企画部(4名)  
副市長 山王丸愛子 企画部長 小松 辰巳  
企画部総合政策課副主幹 福原 敬  
企画部総合政策課副主幹 高橋 正人
- (3) 太田総合支所各課長(4名)  
市民課長 小松 栄 農林振興課長 長澤 猛  
建設課長 高貝 清一 教育委員会太田分室副主幹 安達 成年

(4) 事務局 (5名)

太田総合支所長 鈴木 成人 地域振興課長 大信田英夫  
地域振興課参事 湯野澤俊作 地域振興課主幹 高橋 正由  
地域振興課主査 高橋 隆伸

6. 欠席委員 (5名)

木元菜穂子、小松 淑、鈴木 弘之、高橋 文子、福原 榮司

7. 会議録

(1) 開 会

大信田地域振興課長

おはようございます。本日はお忙しいところ御出席くださいまして誠にありがとうございます。定刻となりましたので、ただいまから平成22年度第1回太田地域協議会を開会いたします。

はじめに会長からごあいさつをいただきます。大信田会長お願いします。

大信田会長

【あいさつ】

例年であれば、耕起のころでたいへん忙しい時期であるが、今年  
は天候が悪く、だいが農作業の進行が遅れているようです。

天候ばかりじゃなく、国政もたいへんな事態となっているよう  
で、迷走を繰り返し、国民から見れば何をしているのか分からない  
状態ではありますが、われわれ地域に住む者は限られた予算の中で、  
地域をより良い状態にすべく、がんばっていききたいものである。

本日は平成22年度最初の地域協議会であり、大変ご多忙中のと  
ころ山王丸副市長はじめ、本庁から小松企画部長、総合政策課から  
ご臨席をいただいています。せっかくの機会でありますので、忌憚  
のない意見等を出していただき、実りある地域協議会とさせていただ  
きたいと存じます。

大信田地域振興課長

年度が変わり職員に異動がありましたので、太田総合支所管内職  
員は鈴木支所長から、本庁管内は小松企画部長から紹介していただ  
きます。

鈴木支所長

【太田総合支所管内職員 (9名)】

小松部長

【本庁管内職員 (3名)】

大信田地域振興課長

続いて、山王丸副市長がごあいさついたします。

山王丸副市長

【あいさつ】

おはようございます。市長に代わり出席させていただいております。協議会に先立ち、一言述べさせていただきます。

年度初めの忙しい時期であります。先ほど会長のあいさつで、いつもより農作業が遅れている状況とのことであり、こうしてたくさんの方々から出席をいただき協議会が開催されますことをお喜び申し上げます。

今年も大仙市の各地域の地域協議会で各地域の課題解消に向けて各地域の住民の皆さんから主体的に検討していただき、方向性を出していくという形で進めていきたいし、各地域に計上している地域枠予算を適正な使い方を、この地域協議会でお話し合いをしていただきたい、幸いにしてこうしたシステムが非常に良い形で進行しており、各地域の住民の皆さんのまちづくりへの参画意識が高まっているように感じられ、協働のまちづくりが着実に進行していると感じられる。主役である市民と行政とがお互いに役割分担を図りながら地域づくりを進め、市民が本当に必要としていることを施策として進めていきたいと考えています。

本年度の太田地域の地域枠予算は5,672千円となっております。これは市全体の地域枠予算を5,000千円上乘せし、大曲を除く7地域で人口割りして配分したものであり、ぜひ有効な利用をお願いしたものであります。具体的な中身については、協議会の研修など活動の原資として活用願いたい。

昨年度は少子高齢化や人口減少の中で大きな転機を迎えている当地域においては「地域公共交通」の問題に対して、今後のあり方について、複数回にわたって協議いただいたものと伺っており、市に対して提言をいただいているとのことであります。特定のテーマを決めて提言をいただくということは初めての試みであり、また、テーマが非常に難しいものであることから、皆さんには大変ご難儀をおかけしたものであり、この場を借りて厚く御礼申し上げます。このほかにもさまざまな課題が存在していることから、今後も地域協議会の皆さんと協議を重ねながら、市民一人ひとりが生き生きと活躍でき、愛着・誇りを持って暮らしていけるまちづくりを進めていきたいと考えておりますので、委員の皆さんにはこれまで以上にご理解とご協力を賜りたい。

大信田地域振興課長

それでは、本日の案件に入りたいと存じます。本日は委員の2分

の1以上が出席していますので、本地域協議会は成立いたしますことをご報告します。条例の規定により大信田会長に会議の進行をお願いいたします。

大信田会長

協議に入る前に本日の会議録署名委員を指名させていただきます。藤原鈴司委員、石崎尚委員にお願いします。

それでは、次第の1番である「地域公共交通の提言」について事務局から説明をお願いします。

事務局：高橋主査

【提言についての説明】

昨年度、協議会で協議した提言書を資料に掲載しているので、会長から概要を説明していただき、提言書を読み上げていただいたうえで、副市長に手渡していただきます。大信田会長よろしく申し上げます。

大信田会長

それでは、私のほうから概要を説明し、提出させていただきます。はじめに「太田コミュニティバスについて」であります。

これは、平成20年度に実証運行を行い、平成21年4月から運行しております「太田コミュニティバス」は、旧太田町の施策として平成8年度から運行されていた「シルバーシャトルバス」から引き継がれたものでありまして、現在は1日2便、月曜日から金曜日までの5日間で10路線が運行されているものです。

シルバーシャトルバスの当時は、60歳以上の方が対象で乗車料金は無料でありましたが、現在は年齢制限がなくなり、乗車料金は1回あたり200円となっております。

当初の運行時から一貫して、各集落と国保診療所・中里温泉を結ぶことを目的に運行されており、現在の利用者は平成20年実績で4,870人、平成21年度実績が3,948人となっております。

課題としては利用者の固定化と減少があげられており、これらの現状と課題を鑑みまして、次のとおり市に対して提言させていただきます。

【提言】

現在、コミュニティバスの役割は、高齢者を主とした交通弱者のための貴重な交通手段となっており、各集落の住民にとって必要不可欠なものであります。

現在の週1便による往復は必要最低限であり、今後も継続するこ

とを望みますが、利用実績は減少傾向にあることから、コミュニティバス運行の主目的地である国保診療者や温泉施設などの関係機関と連携し、利用者増を促す工夫と宣伝が必要であります。

今後ますます利用者の固定化と減少が懸念されること、利用者の自宅からバス停までの歩行すら困難である方の利用を考慮し、さらに経費節減を考慮した場合、現在のバスによる運行スタイルを見直し、フルデマンド型乗り合いタクシーへの移行も検討する必要があります。

続いて「羽後交通長信田線」についてであります。これは、市が運行主体ではありませんが、県補助金廃止後の代替手段の検討が必要であり、提言させていただくものであります。

#### 【提言】

地域と市の中心部を結ぶ唯一の公共交通機関であり、主に通学・通院に利用されており、通学に関しては、保護者による送迎が増えているもののニーズはあることから、代替手段も含めて通学時間帯の低料金の交通機関は必要であります。

また、市の負担軽減のため、利用者の極端に少ない便の廃止や利用者増を図る工夫が必要と思われれます。

主に通院のために利用する方は、高齢者など交通弱者が主であることから、現在地域内の民間業者が運行し、自宅戸口から目的地を結ぶ「乗り合いタクシー」の利用者が多くなっていることから、市の負担増などにより、本路線が廃止された場合、このタクシー業者との連携などにより、地域住民の安全及び利便性を考慮した運行手段を検討する必要があります。

以上を太田地域協議会の地域公共交通に関する提言とさせていただきます。よろしく申し上げます。

#### 【提言書を副市長に提出】

それでは、引き続き意見交換に入ります。副市長や企画部長がお見えになっておりますので、委員の皆さんからさらにお願いしたいことなどがありましたらお願いします。

大信田会長

大信田孝文委員

提言を提出したわけではありますが、旧市町村単位でそれぞれの特

性でこれまで施策を講じてきたわけだが、今後は市全体としてある程度統一した形で進行していくのか、伺いたい。

高齢者が運転免許証を返上してタクシー割引などを得ているようなことがあるようだが、私たちが生活しているこの地域では、現実として何歳になっても自動車は必要である。今後、生活の一手段として公共交通を考えていくためには、より深く考えていかななくてはいけないのではないか。

小松企画部長

現在市が行っている地域公共交通対策計画は、平成22年度が最終年度であり、来年度からの新しい計画策定のため、現在対策会議等を開催し、検討中であります。現計画の基本的な考え方として旧市町村単位、地域完結型となっており各地域の中心地である程度の医療や生活の基盤が整っているところまでの交通体系の確立を検討しているもので、その基本的な考え方はこれからも変わらないものと認識している。それは、すべてを市の中心地に移動してしまうと各地域で持っているそれら財産がなくなってしまう、過疎化を加速させてしまう要因にもなりかねないとの考えから、ある意味では地域の中心地までの交通体系の確立を図らなければならないが、一方では、ここにある長信田線の廃止にもあるように、各地域を結ぶ交通体系をどう確立していくか次の計画では検討していかなければならないと考えています。

高齢者の運転については、非常に難しい問題であります。都会のように各公共交通機関が充実していれば自動車なしでも不自由はしないが、現実には自動車なしではとても生活できない状態であり、とても大きな問題であります。市としてどのようにすればよいか、市全体として検討していく必要があると認識しています。

藤原鈴司委員

羽後交通の長信田線についてですが、娘が大曲方面に通学することになり、利用しようと考えたが、実際、高校の授業の方針とバスの運行時間が合わないのが現状です。また、経費的にも実際は自動車で送迎したほうが割安である。そうしたことから、実際利用には結びついていないのが現状である。

小松企画部長

県の補助制度が2年後に変更されることから、羽後交通では廃止の計画にこの長信田線は上げられています。この路線が廃止されれば太田・仙北地域から大曲地域を結ぶ路線は一切なくなります。

路線バスを取り巻く状況は非常に厳しく、市としても代替手段を検討中であります。ただ、2年間の時間があるわけですから、羽後交通と協議して利用しやすい時間帯の検討をしていきたいと考えております。利用が増えれば廃止とは言えなくなるのではないかと考えられます。今後、高齢化が進み、ますますこの公共交通が果たす役割が大きくなるものと思われませんが、そのときすでになくなっているということでは、それからどうしようかでは間に合わないので、たしかに自動車のほうが自由で便利であることは分かりますが、路線の維持のために少しでもできることを講じていきたいと思っておりますので、支所の担当を通じてでも情報をいただきたい。

大信田会長

地域コミュニティにより、住民の手により乗り合いができる仕組みを構築するなどの検討や、利用されない時間を見直していく必要があると思っておりますが、あまりにも細かい内容となってしまうので、提言には乗せておりませんが、これらも含めて検討いただきたいと存じます。

今年度もこれほど大きなテーマではなくても何かしらを市に対して提言していければと考えておりますので、委員の皆さんよろしく申し上げます。

ほかになれば次の案件に移ります。地域枠事業執行事業についてであります。事務局から説明申し上げます。

事務局：高橋主査

【地域枠予算執行方針：説明】

前年度の協議会で承認いただいた執行方針を地域振興計画と整合を図り、整理した旨、説明する。

【上南集会所敷地舗装事業：説明】

大信田会長

ただいま説明のとおり、前年度の最後の協議会で協議いただき、承認いただいた事業であり、ご承認いただけるでしょうか。いかがでしょうか。

【異議なし】

承認いただいたものとし、これで地域枠予算の施行状況についての説明は終わりとさせていただきます。

次にその他の太田総合支所各課からのお知らせに移させていただきます。よろしく申し上げます。

大信田地域振興課長	<p>それでは、地域振興課からお知らせさせていただきます。 【太田地域光ブロードバンド事業】について</p>
小松市民課長	<p>続いて、市民課からのお知らせであります。施策等につきましては広報等でお知らせしていますので、今回皆さんには市民課のモットー「市民の目線・カウンターの外の気持ちを考慮し、入りやすい支所、声をかけられやすい職員」を目指すため、今年度ががんばりたいと考えております。</p>
長澤農林振興課長	<p>【戸別所得補償制度】 【えだまめ日本一産地条件整備対策事業（県事業）】 【遊休農地活用センターの設立】 【農村整備（土地改良）事業概要】等</p>
高貝建設課長	<p>【大仙市住宅リフォーム助成制度】 【秋田県住宅リフォーム緊急支援事業】</p>
安達教委太田分室 副主幹	<p>【太田文化プラザへの鈴木空如の原寸大レプリカ設置】 【教育・体育施設の指定管理運営概要】</p>
大信田会長	<p>各課からのお知らせに対し、なにか質問等はございませんか。私から建設課長さんに質問です。ご説明のリフォーム事業については、すでにリフォームに着工してしまっている場合は対象とならないのですか。</p>
高貝建設課長	<p>着手前の状態が把握できない状態であれば、対象とすることは難しいと考えられます。ただし、写真等で判断できる場合は対象とすることは可能であると考えられます。</p>
田口誠毅委員	<p>リフォーム支援事業についてですが、県事業と市事業をあわせて受けることができますか。</p>
高貝建設課長	<p>あわせて受けることは可能です。</p>
高橋清一郎委員	<p>一般の方の家屋建築を大手住宅メーカーが施工すれば、70%ほどがメーカーに持っていかれるのが実態のようです。そこで地元の</p>

業者（大工）が施工した場合に、なにか特典があるような施策を検討することはできないでしょうか。

山王丸副市長

公共事業については、できるだけ地元業者が施工できるように配慮している。

高橋清一郎委員

公共事業だけのことでなく、一般市民の家屋建築のことである。地元業者が施工できることで施工費のすべてが地元へ落ちて、消費サイクルが地元の中で行われる、いわゆる循環型社会のシステムとなる。

山王丸副市長

市発注の公共事業だけのことではないのですね。非常に難しいことですので、持ち帰り、建設部長等と検討したい。

小松企画部長

今回のリフォーム事業の対象となるのは、あくまで地元業者に発注した場合のみであり、大手メーカーは対象外であることをご理解いただきたい。

一般市民の家屋建築に対する助成等の特典については、非常に難しいとは思いますが、検討させていただきたい。

市の発注事業については地元業者優先ということを前面に押し出すことは可能であるが、この厳しい財政事情の中、一般の建築事業に対して助成することはかなり難しいものと認識される。

高橋清一郎委員

他地域では、地元の木材を使い、施工業者が地元業者であれば助成するといった制度があるようでしたので、大仙市でも今後ぜひ実現に向けて検討してほしい。

藤原鈴司委員

太田地域の自慢できることとして、お話をさせていただく。私はスキー関係に携わっていて、他地域のスキー場関係者から大台スキー場はたいへん良いスキー場だと、コースも良いし、何よりもお客さんが多いことが素晴らしいとお褒めの言葉をいただいた。リフト待ちで並ぶのは秋田県内で大台だけではないか、アクセスも良いし、今後も大事に継続してほしいとのことでした。ぜひともこうした良いところを維持継続していただきたい。

なお、協和スキー場は、従業員のあいさつが素晴らしい。

大信田孝文委員

社協の福祉事業に携わっているが、太田地域では高齢者等が集まってお話ができるような「サロン」的な施設が現状ではない。以前のこの地域協議会で、草彌太郎委員が太田国保診療所の現在使用されていない入院病棟をそのような機能を持たせるよう検討できないか、といった提案があった。それに対し、補助事業等で整備した施設であり、目的外使用となるため難しいとのことで、立ち消えとなってしまった。しかし、今後も使用されないままでは非常にもったいないので、施設を有効に活用すべきだと思います。

太田は自殺率も高いし、地域の活性化を図ることからもぜひ検討していただきたい。

山王丸副市長

持ち帰り、検討できるかどうかを確認をさせていただく。少し時間をいただきたい。

草彌太郎委員

私は社会福祉協議会に勤務しており、職務上お願いしたいことであるが、ふれあいサロンといった動きが広がっていて、近隣でも空き店舗等を活用して造成されているが、施設維持管理等の面で光熱水費、施設の賃借料など費用がネックとなっているようだ。公共施設を利用することで少なくとも賃借料が発生しなくなり、メリットがある。

以前、市に対する提言として提出する前の段階で支所のほうに相談した経緯があるが、やはり目的外使用に当たるとして取り下げることとなった。現在運行されているコミュニティバス利用者にとっても乗車時間まで利用できることから効果的である。

その際、支所庁舎の空きスペースを活用できないかといったことも提案してもらったが、一般の方にとっては利用しづらいと思われることから、やはり診療所の空きスペースを利用できればと思います。

山王丸副市長

現在、2名の医師がいて、その先生方が今後どのような構想を持っているか、その辺も確認して検討させていただきたいので、お時間をいただきたい。

大信田会長

ほかになければ、事務局からなにかありますか。

事務局：高橋主査

【東部地区ドライブマップ】、【太田文化プラザ鈴木空如パネル】の

完成報告

大信田会長

委員の皆さん、なにかご質問等ございますか。せっかくの機会です。この件に限らず全体的なことでもかまいません。

田口誠毅委員

私も職業上の自慢とお願いをさせていただきます。秋田県がえだまめ日本一になるといった目標を掲げました。この中でも太田の農家の皆さんがたいへんがんばっており、平成21年のえだまめの売り上げが1億6千5百万円となっている。

日本一になる、秋田県一になるために宣伝PRは必要不可欠であることから、何かの機会や贈答用としてもぜひご活用願いたい。やはり基幹産業は農業であり、みんなで盛り上げてほしい。

藤原鈴司委員

大仙市をもっと中央にアピールしてほしい。先日出張で東京に行ったが、駅構内には仙北市のポスターは貼ってあるが、大仙市はないように感じた。仙北市に出遅れているのではないか。

大信田地域振興課長

大仙市の観光ポスターを太田出身の男鹿和雄さんからデザイン画を描いてもらい、作成する計画があるようです。

また、太田地域の真木真昼県立自然公園のPRポスターを作製する予定である。

大信田会長

ほかになければ、これもちまして本日の協議会を終了させていただきます。貴重なお時間、長時間にわたり協議いただきましてありがとうございました。

この会議録の記載が真正であることを保証するため、ここに署名・捺印する。

太田地域協議会会議録署名委員

委員 藤原 鈴 司

委員 石 崎 尚